

平成22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473200937	事業の開始年月日	平成16年5月1日
		指定年月日	平成16年5月1日
法人名	有限会社 横浜ソフトケアサービスセンター		
事業所名	フレнди都岡		
所在地	(241-0031) 横浜市旭区今宿西町296		
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成22年12月25日	評価結果 市町村受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大きい家族として共に暮らし、利用者の自己決定を尊重したケアを行っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成23年3月9日	評価機関 評価決定日	平成23年5月27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 ホームは相鉄線鶴ヶ峰駅からバスで9分、「農協前」バス停から徒歩5分、庭木栽培の畑に囲まれた閑静な住宅地にあり、安心して生活をおくることができる。近くには「よこはま動物園ズーラシア」がある。</p> <p>【理念の実践】 理念が利用者主体の徹底した介護の実践に結びついている。静かで穏やかな声かけや笑顔がホームを満ち、利用者からもスタッフからも笑い声上がる。信頼、余裕をもって介助できるように自己研鑽を積み、明るいチームワークを形成している。自治会に加入し、地区センターを行事の場所として活用している。</p> <p>【職員の自主性の尊重】 職員自身が自分の業務に責任を感じ、現場で実践しよう管理者が配慮している。管理者は細かい指示はあまりせず、職員は一つひとつ自分で考え、行動することを心掛けている。結果への責任は管理者が負うというスタンスをとっており、職員は、生き生きと働いている。なお、職員の定着率は高い。</p> <p>【災害対策】 前回の外部評価後に、「新人職員も参加し、消防署の協力を得て夜間を想定した消防避難訓練を実施すること」を目標として設定し、達成した。火災対応連絡設備、スプリンクラーの設置は進行中である。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	フレンドィ都岡
ユニット名	フレンドィ都岡2号館

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念の共通に努めている。</p>	<p>4項目の理念、10箇条の方針を作り、ホール、応接室、事務所に掲示している。管理者は理念に沿って実践するよう絶えず職員に伝えているので、全職員が周知している。何か問題があった場合は、理念に立ち返るようにしている。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>折々のイベント行事に参加することで、交流できるよう努めている。</p>	<p>自治会、町内会に加入している。地区センターのどんど焼き、つるしびな、夏祭り、クリスマスなどの行事にも参加している。地域の図書室を利用している方が4、5名いる。地域との交流を考え、スーパーまで歩いて買物へ出かけている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域貢献できるべく、スタッフの意識、力量を育成しているところである。</p>		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2か月に一度、会議を行い意見を取り入れている。</p>	<p>2ヶ月に1回開催している。会議の中で、お誕生会の企画や、火災の時の通信手段として半鐘を設置するなどの提案があった。自治会長、ケースワーカー、区の職員、地域包括支援センター職員などが出席している。</p>	<p>近隣の方々のご意見を聞くためには、まずホームを見て知ってほしい。運営推進会議のテーマによってはメンバーを加えるなどして、幅広い意見をいただける場にする事を期待したい。</p>

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当CWが変わられ、新たな協力関係を構築している。	行政からの要請を受けて区と連携し、入居希望者の必要な情報提供を受けている。市町村主催の研修には本社のサポートもあり、ほぼ出席している。また、旭区グループホーム連絡協議会の交換研修にも参加している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	人として尊厳を尊重したケアに努めている。	理念に則り、尊厳に配慮したケアをするため、身体的拘束、その他利用者の行動は制限していない。契約書にも「身体的拘束は行わない」と明記している。安全、防災のため玄関の施錠をしているが、家族の了解を得ている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の概念の認識を新たに、職員間で討議し、注意に心掛けている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門的な内容に関しては、外部研修への参加を出来るように努めていく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話しやすい環境を作り、説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望をスタッフ会議の場で話し合い、反映に努めている。	利用者の思いや意見は、日常会話や様子を見ながら把握するように努めている。旭区のケースワーカーが対応したケースなどについても、事業所がその内容を聞き、把握している。家族からは主に手紙か電話で聞いている。意見・要望は共有し、運営に反映していく意向である。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間のコミュニケーションや、スタッフ会議の中で積極的な意見交換がなされている。	ホーム長が直接、職員の意見を聞いている。職員の意見や提案について利用者などの実態を確認しながら、職員個々と意見交換をし、よりよい方策を見出すように努めている。会議では職員間で厳しい意見も出るが、お互いに協力している。職員の自主性が増し、要望、アイデアが活発に出てきている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	適切な評価と職場の環境整備に努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を掲示し、スタッフ側から積極的に参加希望が出る環境となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	交換研修等で、関わった施設を中心にネットワーク作りに努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	具体的に傾聴、受容、共感を柱とし、対応に努める。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安、希望等、話し合いの時間を設け、関係作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族、担当CW等から得る情報をもとにサービスを行っている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にすることの意義の再認識に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>新たな関係構築が図られるよう努めている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>各人のバックボーンを確認の上、方法手段も含め検討している。</p>	<p>各人の「バックボーン」についてのケースワーカーの記録を基に、行きたい所や、やりたいことがある場合には、個々に対応している。ご家族がいて、田舎がある方には外泊できることもお知らせしている。入居一年未満の方は馴染みの場所に行きたい気持ちが強いので、なるべく話に耳を傾けるようにしている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>共有スペースにおいて、多種行事を共にすることで、相互関係の構築に努めている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>こここのところほぼ入院後、逝去による退去の為、今後は改めて検討していく。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の状況に則したケアプランの作成に努めている。	思いや意向はケアプラン作成の際などにも汲み取るようにしている。思いを言えない利用者への対応は、経験が必要なので、ベテラン職員などが、ちょっとしたことで利用者の情報を伝え、共有することで対応している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ほとんど入居後、ご本人からのお話を吟味し、情報としてまとめている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、バイタルチェックや、申し送りにて把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングシートを活用し、話し合い、計画ある介護に努めている。	「サービス実行モニタリングシート」を使い、介護計画を6ヶ月に1回見直し、状況に応じて見直しを増やしている。旭区のケースワーカーが直接利用者に会って話を聞いているので、それも参考にしながらケアプランを立てている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録、申し送りノートの記載内容、方法を検討等して努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多機能化とは何か、まずは新たなニーズを予測するところから組みたい。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々のご利用者様に応じて、地域資源を活用させて頂く。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現場での的確な判断によって受診している。医療相談の出来るよう、ドクターとの関係構築に努めている。	現在、全員が協力医療機関で受診している。2週に一回訪問医の往診がある。訪問医が代わったばかりで比較的關係が浅いので、医療相談などが気軽にできるように医師との信頼関係構築にも努めている。内科以外については、通院介助の支援をしている。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員、訪問看護について対応を検討中。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	既往歴、服用薬、ADL、ホームでの生活をまとめた情報を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>生活保護者が多いの中で、終末期を迎えた方について、CWなどと改めて対応について、検討していきたい。</p>	<p>事業所は自宅同様と考えている。事業所で終末期を迎えたいと望まれる方に対しては、できる限りの介助を行いたいと考えているが、現在の所は、終末期の支援を行う態勢が整えられていない。今後、利用者の高齢化、ADLの低下に伴い、ターミナルの必要性は増していくと考えている。</p>	<p>現時点では重度化、終末期に対する方針、指針はできていない。利用者の今後のために職員、ケースワーカー、本部などが協力して研修なども重ね、まずは方針・指針を共有化することを期待したい。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>順次スキル毎に研修への参加が出来るよう図っていく。</p>	/	
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害対策の一環として、職員の消防訓練を定期的実施している。</p>	<p>防災避難訓練は昨年8月、本年2月に新人職員を含め行った。火災対応緊急連絡設備、スプリンクラーの設置は進行中である。2階のベランダに垂直式避難袋があり、利用者がテスト済みである。水・食品の備蓄はある。</p>	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>理念に掲げ、個人の尊厳を守る事に努めている。</p>	<p>利用者への静かで穏やかな語りかけ、決して馴れ合いにならないコミュニケーション、写真掲出許可の徹底、トイレや風呂場での遮蔽構造など、生命・尊厳・生活を守る理念が管理者、職員に徹底している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の生活全て介助することなく、自らの意思、希望が表せるよう雰囲気作りにも心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自らの意思、希望が表せるよう雰囲気作りを心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	極力希望に沿う支援を努めている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一部ではあるが、食事の準備、片付けに興味を示されるご利用者様もいる。	調理での音やにおいによって食への関心を持ってもらえるように心がけている。食事の準備は職員がしているが、後片付けのできる方は一緒にしている。調査当日は静かな食事風景だったが、食事中はテレビを消し、代わりに利用者に馴染みのある童謡のBGMを流すなどの工夫をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事及び水分量は、チェック表を用いて確認している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>食後の口腔ケアと義歯の夜間洗浄は、日常行っている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄チェック表を用いて、個々にトイレを促すと共に、予防と自立支援を努めている。</p>	<p>排泄チェック表から排泄時間を予想し、対応している。眠そうにしている、ソファへ行きかける、食後一定時間経過など、個々の排泄パターンを見極め、トイレに誘導している。個々の様子に気を配り声かけをして失敗のないように努めている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェック等で訪問医に相談し、指示を仰いでいる。また、体操を日課として行っている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>衛生管理の上からも、入浴表を用いて、極力多くの入浴機会を設けている。</p>	<p>入浴回数は少なくとも3日に一度ぐらいだが、入りたがらない方もいるので入浴表で確認している。入浴時間は午後1時から5時ごろまでとしている。入浴の目的を清潔を保つこととし、風呂だけでなく、シャワー浴、足湯浴なども活用している。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>規則正しい生活をして頂くことを基本に、個々の状態に応じて支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>配薬担当を決め、服用には留意している。また、体調管理も記録し、医師に報告している。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>職員が個々に有する技能を利用し、楽しみ、喜びあるものとするよう支援している。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>行事的な外出機会にシフトを整え、実施している。</p>	<p>希望者が1、2名でも職員が同行して週3回ぐらい散歩をする。散歩以外は買物同行、好みを聞いてのランチ外食、バーベキュー、誕生日会に地区センターへ出向くなど計画的に外出支援を行い、年1回のバスツアーも実施している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>生活保護者がほとんどの為、むしろ物品に不自由が無いが、留意に努めている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>ご本人の状況により、個々に対応するよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有される空間は、第一に衛生に心掛け、その上で家庭的な雰囲気になるよう努めている。	東側の屋根が傾斜を持ち、天窓があり採光が十分取れ明るい。大型のソファが2脚あり、4畳の畳スペースは手作業の場として使われ、寝転ぶこともできる。衛生管理に留意しているので、設備、備品などは質素であるが清潔である。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子、そして畳敷きと、くつろいで過ごせるスペースを提供している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内には、愛用品、愛着のある品を置き、和める空間を作って過ごして頂いている。	洋間で基本設備はエアコンと防燃カーテンとなっている。ベッド、衣装棚、仏壇、机、写真、自分の作品など各自お気に入りのものを自由に持ち込み、個性的な部屋作りがうかがえ清潔感があつた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは、常時点灯。各所に表示を置くなどして、生活に活かして頂くように努めている。		